

バングラデシュが独立を果たした1972年の2年前から大林組は同国に進出し、現地でインフラ整備に携わってきた。中斷期があつたものの、政府開発援助（ODA）工事を中心に約半世紀にわたって建設事業を続けている。

同国での交通インフラ整備事業を中心に当社の取り組みを紹介する。首都ダッカ市と最大の貿易港を持つチッタゴン市を結ぶ国道1号線には、大河のシタラキヤ川、メグナ川、グムティ川が流れおり、かつてはフェリーでの渡河が必要だった。当社はこの交通の要所となる3カ所に橋を建設した。77年に完成したシタラキヤ橋（現カチプール橋）をはじめ、91年完成のメガナ橋、そして95年に完成したメグナ橋だ。その後、交通量増加を受けて国道1号線が対向2車線から4車線へ拡幅され、当社はメガナ橋周辺で中型橋梁を2000年までに5橋新設した。経済成長に伴う交通量増大に

プロジェクト便り 海外建設協会

◆バングラデシュ

カチプール・メグナ・グムティ第2橋建設と既存橋改修



大林組

よつて道路部分の拡幅が進む一方で、ボトルネックのカチプール、メグナ、グムティの3橋の第2橋建設が急務となつた。既存橋の対向2車線（カチプール橋は4車線）に新設の対向4車線を加え6車線（同8車線）とする「カチプール・メグナ・グムティ第2橋建設および既存橋改修工事」が15年に発注され、

既設橋は、カチプール橋が完成から40年、メグナ橋とグムティ橋は25年ほど経過していたが、構造的な劣化・損傷は見られなかつた。今回の改修工事では、地震に対する補強、耐久性の向上、メンテナンスの低減化対策を実施。既設のメグナ橋とグムティ橋は、場所打ちカンチレバーの単純スパンを伸縮継ぎ手でつなげたプレストレストコンクリート（PC）橋で、伸縮

メグナ橋だ。その後、交通量増加を受けて国道1号線が対向2車線から4車線へ拡幅され、当社はメガナ橋周辺で中型橋梁を2000年までに5橋新設した。経済成長に伴う交通量増大に

橋の基礎部分に鋼管矢板井筒基礎、上部鋼橋部分には鋼細幅箱桁と合成床版といった日本で開発された建設技術を採用している。既存橋基礎の補強と新橋基礎の一体化を図るために基礎形状は小判型。一つの基礎に空頭

想定外の事態に迅速対応

施工中のカチプール橋①とグムティ橋周辺



大河の交通インフラ整備で技術結集

着工から6ヶ月後、ダッカ市内に日本人技術者も巻き込まれた悲劇的なテロ事件が発生した。このため、現場や宿舎周辺の安全警備対策の強化が急務となつた。工事の一時中断という議論もあつたが、施主、バング

ラデシュ政府、警察、大使館、事務所・塩崎哲也)

国際協力機構（JICA）など関係者の積極的かつ真摯（しんじ）な協力を受け、警備増強の計画・整備を3ヶ月強の短期間で行い、現場作業の再開を果たすことができた。その結果、三つの新設橋は19年3～6月に供用を開始し、既設橋の改修工事も同12月までに完了している。

A、インフラシステム輸出に十分貢献した工事だと思われる。今後も技術移転により、途上国の発展に貢献していきたい。（アジア支店バングラデシュ事務所・塩崎哲也）